

地域自治組織と学生等若者・NPO 等
との協働によるモデル事業
(報告書)

平成28年(2016年)3月

豊中市

はじめに

豊中市は、自治基本条例に定める地域自治の実現に向けて平成 24 年（2012 年）に地域自治推進条例を施行し、豊中スタイルの新たな地域自治の仕組みを創設しました。これに基づき、地域コミュニティの活性化と小学校区を単位とした地域の連携・協働の仕組み（＝地域自治組織）づくりに取り組んでいます。

地域自治推進条例の施行後 3 年目にあたる平成 26 年度（2014 年度）に条例の運用状況を点検し、地域自治の取り組み成果と課題を明らかにするとともに、今後必要な取り組みについて検討しました。今後、各校区における地域自治の取り組みを継続・発展させていくために、地域の情報共有や住民のつながりづくり、新たな人材の発掘などが必要となっています。運用状況の検討のなかで、今後の取り組みの方向性として「地域自治についての理解の促進」、「地域コミュニティ活性化の基盤の整備」、「取り組みの担い手の発掘・育成地域における担い手の育成」が挙げられました。

そこで、学生などの若い世代の人たちが地域活動に参加できるような取り組みを促進するとともに、地域内外の NPO や事業者などがそれぞれの経験や専門性を地域の課題解決に活かせるような方策を検討し、「地域自治組織と学生等若者・NPO 等との協働によるモデル事業」を実施しました。

本事業実施にあたっては、新千里北町地域自治協議会及び小曾根小学校区地域自治協議会の皆さまや、各事業の関係者の皆さまには、事業の推進やアンケートへのご協力いただき、また、市民公益活動推進委員会などから、多くの貴重なご意見をいただきました。心からお礼を申し上げます。

平成 28 年 3 月
豊中市市民協働部コミュニティ政策課

目次

本編 (49 ページ)

内容

はじめに.....	1
目次.....	2
I. 事業の概要.....	3
1. 事業の内容.....	3
2. 事業のスケジュール.....	4
3. 事業受託団体.....	4
II. 事業の内容.....	5
1. 子育て関連団体の運営支援.....	5
2. 広報事業支援.....	7
3. 子育て事業支援.....	9
III. 意識調査.....	14
1. アンケート調査.....	14
2. ヒアリング.....	29
IV. まとめ.....	32
V. 参画団体の紹介.....	33
参考資料.....	39
1. 豊中市の自治・まちづくり関連条例の歩み.....	39
2. 地域自治の取り組み状況.....	40
3. アンケート調査票.....	41

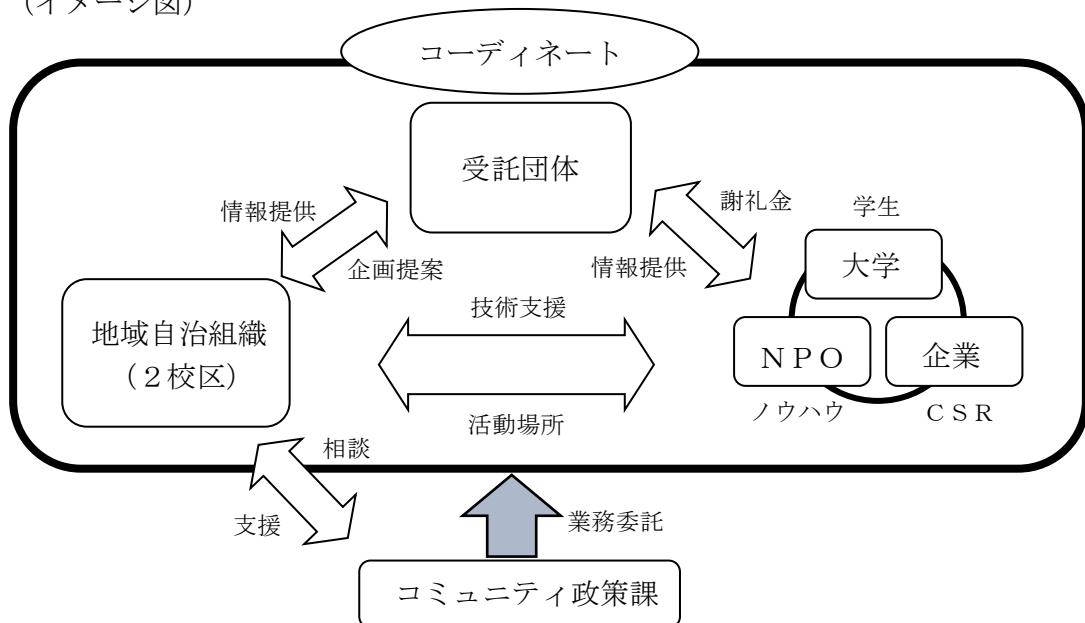
I. 事業の概要

1. 事業の内容

本事業は、現在拡がりつつある地域自治組織の活動支援や地域・行政の課題解決に向けて、市民活動団体の持つ特性や専門性、活動経験等を地域活動に活かすことで市民活動の発展につなげていくことや、地域活動の担い手として、地域の住民、特に学生等の若い世代の人が、地域活動に参加・参画し、活動への達成感を体験することで、持続可能な地域活動につなげていくことを目的として試行的に実施しました。

実施にあたり、提案公募型委託制度を活用し、事業の企画・実施に向けたコーディネート業務の委託団体を募集し、公開プレゼンテーションを経て、受託団体を決定しました。

(イメージ図)



地域の課題等について

- ・ 地域活動に若者の参加・参画が見られない (=活動の担い手不足)。
- ・ 子育て世代 (乳幼児含む) の交流、世代間の交流の機会が少ない。
- ・ 地域活動に参加する住民の減少 (引越しされてきた人との交流がない、地域活動に無関心)。
- ・ 少子高齢化にともない、高齢者の孤立化 など

地域自治組織への支援状況について

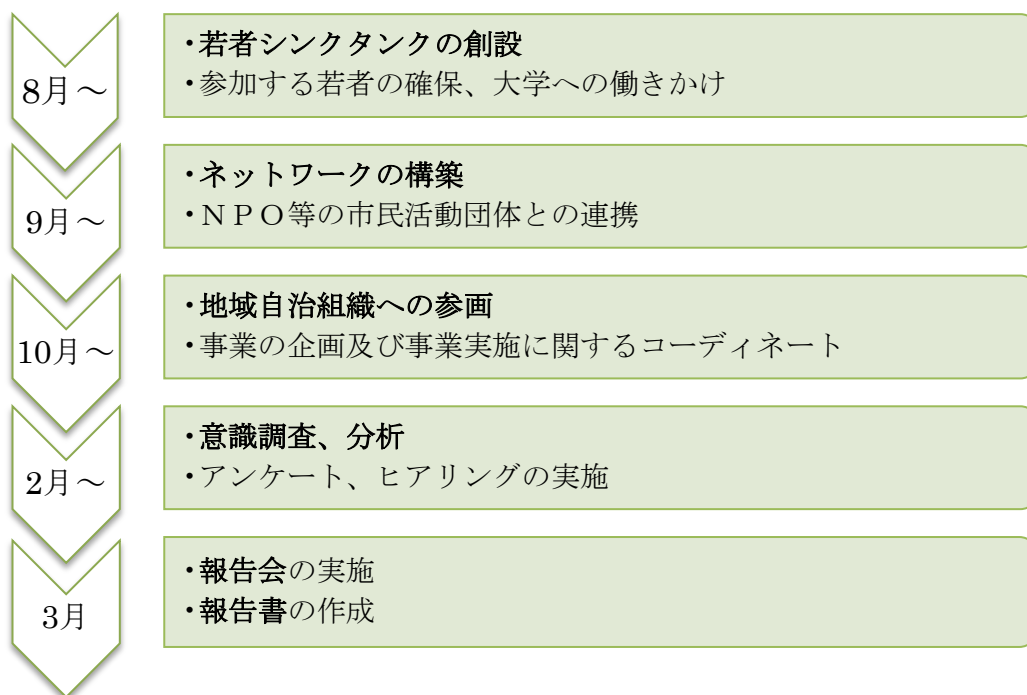
①支援の状況

- ・ 地域自治組織の活動への助成及び担当職員の助言
- ・ 校区別統計データなど行政情報の提供 など

②支援にあたっての行政の課題

- ・ 市民公益活動団体や学生等との連携・協力した取組みの経験不足

2. 事業のスケジュール



3. 事業受託団体

事業受託団体の一般社団法人ソーシャルギルド（旧「市民社会 DoTank」、以下「受託団体」という。）は、NPO・NGOの中間支援の経験者や、NPO法人で業務・活動を行なっている若者を中心に発足し、「孤独・孤立をなくし、多様性が受け入れられる社会基盤をつくる」ことをテーマとして、各種市民活動団体へのハンズオン支援（ケースに応じて必要なサポートを伴走して行なっていく）と、若者の社会参画を促す活動を展開しています。

本事業で実施する「地域自治組織と若者・NPO等が連携し地域課題の解決に向けて協働するための企画立案」、「企画の協働実施に向けた、地域自治組織とNPO等多様な団体とのマッチングおよびコーディネート」、「地域、若者、NPO等団体それぞれの意識調査をもとにした、モデル事業の効果測定」において、受託団体は次の役割を担いました。

(1) 担い手拡大につながる協働プログラムの提案とコーディネート

地域自治組織に、若い世代の担い手がより参画するよう、定例会議や活動などを通じて、若者の視点を取り入れた協働プログラムを提案した。NPO等から地域との協働プログラムを実現するための関係者間のコーディネートを行った。

(2) 学生等若者のリクルーティング

関西圏の各大学ボランティアセンターや学生支援担当窓口（関西大学 地域連携センター、大阪府立大学 学生サポートグループ等）への呼びかけや、ソーシャルギルドの定例会における説明、ホームページやSNSなどでの発信を行い、本事業の主旨に賛同し参画する学生等若者を募り、活動へのコーディネートを行った。

(3) 「若者の声」を活かす若者版シンクタンクの活用

若者の意見を地域課題の解決のために活かす事が、本事業の一つの大きな特徴であり、若者による社会活動参画チームの大学生3名の事業への積極的な参画を行った。

II. 事業の内容

本事業では、平成 26 年度（2014 年度）に地域自治組織を設立し、地域の課題解決に向けた取組みが進みつつある 2 校区（北丘小学校区・小曾根小学校区）で実施しました。

1. 子育て関連団体の運営支援

(1) 新千里北町・地域子ども教室「北丘わくわくキッズ」企画・運営支援

①事業概要

子どもたちが安全に安心して過ごせる居場所づくりを目的として、小学生が中高生や地域の大人と交流しながら、スポーツや文化活動を楽しく学び、様々な体験を行なう「地域子ども教室」（北丘わくわくキッズ）への企画・運営協力として、外部の団体や社会人講師をコーディネートし、子どもたちへの居場所と学びの提供を行った。

②事業目的

- ・講師派遣や技術指導によるノウハウの継承や企画・運営支援
- ・市民活動団体の認知、活動の普及

③事業開始時の課題

地域	運営スタッフが少ないため、事業の企画・運営が負担
市民活動団体	団体活動に対する住民理解の促進と新たな活動場所の確保

④事業の効果

- ・月 1 回、第 4 水曜日に実施する講座の企画・運営を NPO 等が担うことで、地域側の負担軽減に寄与した。
- ・被災地で活動する大学生や、ボランティアの大学生など、子どもたちにより近い年齢層で社会活動を行なっているロールモデルを提示することができた
- ・プロのイラストレーターや、人力飛行機設計のスペシャリストなど、新たな講師層の発掘を行い、地域にとっては新たな視点での企画づくりの参考となった。

⑤今後の課題

コアとなる運営スタッフが少ないため、負担軽減のために担い手の発掘と、一人一人の負担を減らすようなシステム作りが必要となる。また講師となるような外部人材の紹介やつながり・ネットワークづくりの支援が必要。

⑥実施体制、役割、予算

	地域	市民活動団体等
実施体制	地域子ども教室 新千里北町地域自治協議会	A) 顔面研究部 B) 神戸大学学生震災救援隊 C) ソーシャルギルド中村氏
役割（予算）	事業運営、子どもへの周知 講師謝礼（地域子ども教室）	事業企画、講師派遣

⑦実施内容

A) 4コマ漫画教室 (平成27年10月28日)

地域イベントなどにも多数参加している漫画家・イラストレーターの集団である「顔面研究部」の梅田氏を講師として、ハロウィンにちなんだキャラクターを用いた4コマ漫画づくりを体験。一コマだけ漫画を描いて、横の人に渡して、4人で一つの四コマ漫画を作るという形式で、チームで協力して作品づくりに取り組んだ。



B) 足湯体験教室 (平成27年11月25日)

阪神・淡路大震災以降、被災地の復興支援や仮設住宅での足湯活動などに取組む、「K O B E 足湯隊」の奥澤氏を講師として、被災地での支援活動の様子を知るとともに、実際の足湯活動のレクチャーを行った。



C) 飛行機の話と、模型飛行機づくり (平成28年1月27日)

鳥人間コンテストでの優勝チームにて、人力飛行機的设计に携わっていた中村氏を講師として、設計や飛行機づくりにかける情熱や、少年時代の話を通じて努力することの大切さなどを伝えるとともに、プロペラ式の模型飛行機を飛ばす体験授業を行った。



⑧参加人数

各回 子ども約40名、大人約10名 全3回

2. 広報事業支援

(1) 小曾根小学校区における、防災をテーマとした地域広報誌の企画・編集

①事業概要

小曾根小学校区地域自治協議会で重点的に取り組む「防災」に対する若い世代への啓発と参画促進をめざして、学生やNPO等が地域活動の取材を通じて地域住民との交流を図りながら、地域と協働して地域住民にとって親しめる広報誌面の編集・企画を進めた。



広報誌表紙

②事業目的

- ・ 防災訓練の周知
- ・ 若者の地域自治組織の取組みに対する理解促進
- ・ 広報活動を通じた、地域活動への参加促進

③事業開始時の課題

地域	活動を情報発信するツールがない。 若者の地域活動の参加・参画が少ない。
市民活動団体	地域との接点不足

④事業の効果

- ・ 全戸配布で情報を発信したことで、防災訓練に対して問い合わせが多数あった。
- ・ 広報誌作成を契機に、地域活動の情報を若い世代に発信する機運が高まった。

⑤今後の課題

地域の中から広報誌等の広報活動に興味を持ち、これに従事する人材の発掘と確保が必要となる。また、若者を中心とした、より広い層に地域の活動を知ってもらうためにはホームページやSNSなどインターネットを活用した媒体も必要となり、地域からもその必要性を訴えられているため、その作成や維持のための技術やノウハウのサポートが必要。

⑥実施体制、役割（予算）

	地域	市民活動団体等
実施体制	小曾根小学校区地域自治協議会、 豊中市立第十二中学校生徒会	A) 株式会社ユナイテッド・トゥモロー B) 株式会社サタケ C) 若魂 D) 顔面研究部 E) ソーシャルギルド
役割 (予算)	編集会議および取材の調整 地域情報の提供 誌面の構成・編集	A) 誌面構成・編集の助言 B) 企画実施への物品提供 C) 地域行事の取材、写真撮影 D) イラスト提供 E) 取材のコーディネート

⑦実施内容

○編集会議での意見交換を通じた誌面づくり

防災関係の活動団体を中心とした編集会議での協議を重ね、地域によるこれまでの防災への取り組みを確認しながら、若者と地域自治組織がともに誌面の内容・構成などを考える場を設けた。



《取材内容》

○ポンプ操法訓練

平成27年11月に実施予定であった神崎川流域合同防災訓練に向けて南消防署で行われたポンプ操法訓練を取材。



ポンプ操法訓練

○豊中市立第十二中学校生徒会

若者目線の記事づくりのための非常食試食体験を開催。豊中市立第十二中学校生徒会と協議会のメンバー、教員、市民活動団体による多様な視点での防災に対する意見交換の内容を誌面に反映。また防災食は、「株式会社サタケ」（稲津町）より無償提供いただきました。



非常食試食体験

○防災活動に取り組む各団体

防災活動に取り組む各団体に対して、取り組み現況や若者に向けて伝えたいメッセージの聞き取りを行ない、より地域の思いを盛り込んだ記事づくりとしました。



⑧参加人数

編集会議および取材のべ55人

3. 子育て事業支援

(1) 子育て意見交流会

①事業概要

北丘校区で活動する子育て関連団体と子育て中、または子育てに関心のある住民が交流しながら、ワークショップ形式で、まちの課題、魅力、対策等について話し合った。

②事業目的

新千里北町地域自治協議会の子育てビジョン「のびのびと子育てができ、みんなが元気にあいさつするまち」の実現に向け、意見交換を通じて地域に必要とする子育ての取組みを導き出し、地域の中期計画「地域づくり活動計画」の策定に繋げる。

③事業開始時の課題

地域	意見を引き出すためのワークショップ等の不足。 事業の企画・実施への負担感。
市民活動団体	団体活動に対する住民理解の促進と新たな活動場所の確保。

④事業の効果

- ・協議会の子育てビジョンの実現に向けた中・長期的な取組みの方針を確認した。
- ・地域活動への関わりが少ない現役子育て世代の意見が聞くことができ、また、交流の機会につながった。
- ・校区内にある子育て関係団体のつながりづくりのきっかけになった。

⑤今後の課題

地域の人たちが自らワークショップ形式の会議を進めるために、NPO等からのノウハウの継承や、意見交流のなかで出されたアイデアを協議会の事業計画に反映させていくことが必要になる。

⑥実施体制、役割（予算）

	地域	市民活動団体等
実施体制	新千里北町地域自治協議会 子育て関連団体	A) とよなかESDネットワーク B) 子育て応援まーる
役割 (予算)	住民及び関係者、施設利用者 (保護者) への周知	A) 事業企画・運営、コーディネート B) 一時保育

⑦参加人数 21名



意見交流会



一時保育

(2) 環境整備及び地域交流支援

①事業概要

新千里北町地域自治協議会・子育てサークル部会の「交流の機会と拠点の整備」事業として、「子育て支援」「世代間交流」を目的に、地域住民が気軽に集える活動拠点「畑のある交流サロン@kitamachi」の整備を行った。

②事業目的

- ・北丘小学校中庭での畑づくり、および畑で収穫された農産物をつかったイベントを通じて、世代間交流を促進する。
- ・北丘小学校コミュニティルームを、世代間交流の拠点として整備する。

③事業開始時の課題

地域	若者が少なく、子育て世代の孤独・孤立化への懸念がある。 新千里北町エリアに、世代間交流の拠点が少ない。
市民活動団体	団体活動に対する住民理解の促進と新たな活動場所の確保。

④事業の効果

- ・畑のある交流サロン関連のイベントがあることで、学生等の若者がボランティアとして参画する接点が増えた。
- ・畑づくりをきっかけとして、収穫物をつかったイベントや「北町みんなでペイントまつり」など、新千里北町における世代間交流の企画アイデアが生まれ、地域と若者等が協働して世代間交流をすすめていくための土壌をつくることのできた。

⑤今後の課題

畑に関連した行事や取り組みは地域住民の関心も高く、拠点を活用した子育て支援や世代間交流を具現化するために、サロンの機能の整備を今後強化する必要がある。そのためにはサロンでのイベント企画のほか、レイアウトや内装などのハード面とともに、より幅広い層の人の居場所となるようなしくみと情報伝達の方法や広報が必要となる。

⑥実施体制、役割（予算）

	地域	市民活動団体等
実施体制	畑のある交流サロン分科会 豊中市立北丘小学校 新千里北町地域自治協議会	A) NPO法人みんなの未来かいたく団 B) 千里ニュータウン研究・情報センター C) 若魂 D) ソーシャルギルド
役割	事業実施主体（企画・運営・住民への周知等）	A) 拠点整備に関する提案 B) 活動の記録 C) イベント時の写真・動画撮影 D) コーディネート、情報発信

⑦実施内容

【畑の整備】

自然と親しみながら地域住民が交流できる場として、北丘小学校の校庭の一部を市民農園として開墾し、畑の整備、野菜づくりを行なった。

【交流拠点の整備】

北丘小学校の公民分館の一室（コミュニティルーム）をサロンに改装し、畑と一体になった交流の場として整備を進めた。プロジェクト発足当初の2015年9月初旬には、取組みに関心をもつ市民団体や、畑作業にもかかわっている学生など12名が地域住民とともに、世代間交流を進めていくためのアイデアを出しあった。



ふれあい農園



畑作業



企画会議

【イベント内容】

「世代間交流」を目的に、上記の拠点を活用したイベントを、畑のある交流サロン@kitamachiで実施した。

○芋ほり大会（10月12日（月・祝）、参加者60名）

畑で育てたサツマイモの収穫体験を通じて、子ども達に食べ物を大切にすることの意識を育むことができた。

○竹筒芋ごはん大会（10月25日（土）、参加者68名（うち、子ども23名））

子どもや大学生をはじめ様々な世代の住民が、事前に準備した竹筒での芋ご飯の調理や、残った炭での焼き芋づくり等、準備から食事・後片付けまで楽しみながら過ごすイベントとなった。また、子どもを中心に災害時に役立つバンブーハウスの組立ても行った。

○クリスマス寄せ植え講座（11月21日（土）、参加者21名（うち、子ども3名））

畑のある交流サロン@kitamachiのメンバー池本氏が講師となり、クリスマス寄せ植え講座を実施。当日はコミュニティルーム内にプレイマットを敷いて親子参加に備えた。



芋ほり大会



竹筒芋ごはん大会



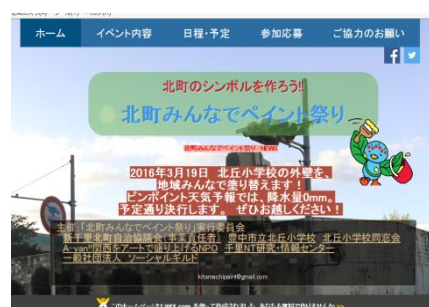
クリスマス寄せ植え講座

【その他の活動】

- ・ホームページ作成支援、「畑のある交流サロン」メンバーの名札作成



名札



ホームページ

(3) 北町みんなでペイント祭り

①事業概要

北丘小学校のプールの外壁が経年劣化と汚れが目立つため、①小学校の印象を高めること(小学校の意見)、②幹線道路面からの地域の印象を高める(地域自治協議会の意見)、事業を通じて地域コミュニティの活性化を図る(地域自治協議会の意見)ことを目的に、地域住民や子育てに関する団体、外壁のリニューアルを専門とする市民団体等が連携し、外壁の塗り替えを実施。また、事業費用は、小学校同窓会からの寄付や自治会を含む地域の諸団体、子ども達が主体的に寄付を呼びかけたこともあり、当初予定していた事業費を大きく上回った。

②事業目的

- ・ペイントイベントやその過程を通じて、子どもを軸として多世代間の交流の機会を創出する。
- ・小学校、新千里北町の印象を高め、魅力あるまちづくりにつなげる。
- ・事業を通じて、地域コミュニティの活性化につなげる。

③事業開始時の課題

地域	大きな範囲の壁をペイントするノウハウがない。 ペイントにかかるペンキや用具などを調達する費用がない。
市民活動団体	団体活動に対する住民理解の促進と新たな活動場所の確保。

④事業の効果

- ・新たな住民の参画や世代を超えた関わりがみられ、地域のつながりがより深まった。
- ・企業の社会貢献活動やNPO等の市民団体の取組みが地域の住民に受け入れられ、各々の役割のもと協働した効果がみられた。
- ・小学生が主体的に関わり、地域活動を積極的に行うという経験を得ることができた。

⑤今後の課題

事業に参画・参加された住民が、継続的に地域活動に参加できるような仕掛けづくりや組織環境づくりが必要。

⑥実施体制、役割（予算）

	地域	市民活動団体等
実施体制	A) 新千里北町地域自治協議会 B) 豊中市立北丘小学校 C) 北丘小学校同窓会	A) A-yan!! 関西をアートで盛り上げるNPO B) 塗魂ペインターズ C) ディスカバー千里 D) 関西ペイント、サンコーペイント E) ソーシャルギルド
役割	A) 事業統括、地域住民への B) 子どもや保護者への周知 C) 事業への寄付	A) ペイントの技術指導 B) 壁の洗浄・下塗り C) 活動の記録、資料の提供 D) 使用するペンキの提供 E) ボランティアへの周知とコーディネートなど

⑦実施内容及び参加者数

会議、イベントの種類	回数	参加者数（延べ 683 人）
地域での会議	12 回	165 人
市（都市計画課）との会議	3 回	25 人
NPO等協力団体との会議	3 回	8 人
ペイント実行委員会	3 回	177 人（子ども 90 人 大人 87 人）
ペイントのリハーサル	1 回	60 人
ペイントの下塗り、本番	2 回	248 人



企画会議



募金活動



スープ作り



壁の洗浄



イベント本番



イベント本番



ペイント実施後の小学校プール外壁

III. 意識調査

地域自治組織と学生等の若者、NPO等の市民団体が相互の理解を深めながら持続可能な地域コミュニティの活性化に向けた支援のあり方を検討するための基礎資料を得るために、アンケート調査及びヒアリング調査を実施しました。

1. アンケート調査

(1) 調査概要

① 調査期間

平成 28 年（2016 年）3 月 7 日（月）～3 月 18 日（金）

② 調査対象

- 新千里北町地域自治協議会および小曾根小学校区地域自治協議会の役員等（以下「協議会役員等」という。）
- モデル事業に参画・協力したNPOおよび事業者（以下「NPO等」という。）
- モデル事業に参加・参画した学生等（以下「学生等」という。）
- モデル事業に参加・参画した一般参加者（以下「参加者」という。）

③ 調査方法、配布数、回収の状況

	調査方法	配布数	回答数 (無効数)	有効回答率
協議会役員等	郵送	41	30 (0)	73.2%
NPO等	WEB	13	12 (0)	92.3%
学生等	WEB	28	13 (0)	46.4%
参加者	事業実施時	100	49 (0)	49.0%

④ 調査内容（主な項目）

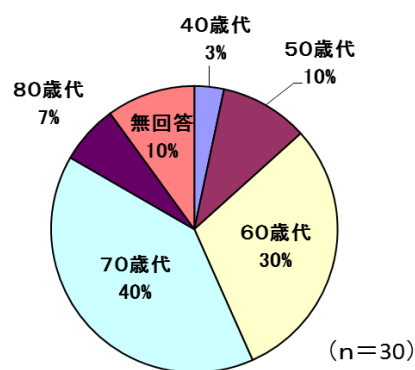
- 地域活動に若者・NPO等が参加することによる、各者の意識把握
- 事業実施による、地域自治組織と若者、NPO等の相互理解への効果
- 今後の効果的な協働のあり方に対する意見集約

(2) 調査結果

①協議会役員等

● 年齢構成

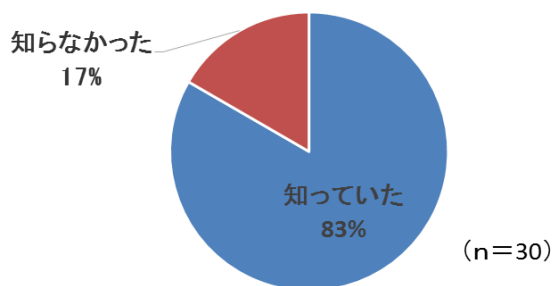
回答者の年齢構成は、60歳代と70歳代で70%を占めていた。



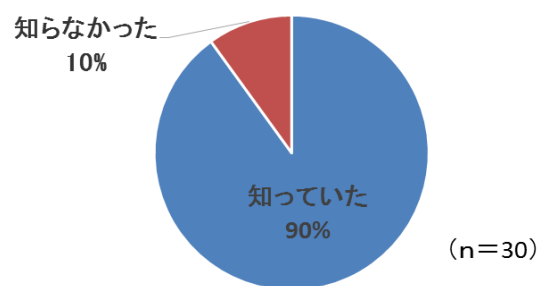
● モデル事業（若者やNPO等の参加・参画）に関する認知

モデル事業（以下「事業」という。）への若者やNPO等の参加・参画に関しては、事業実施前に協議会役員等との調整を行っていたこともあり、大多数が知っていた。

問1. 地域活動への若者の参画について



問6. 地域活動へのNPO等の参画について

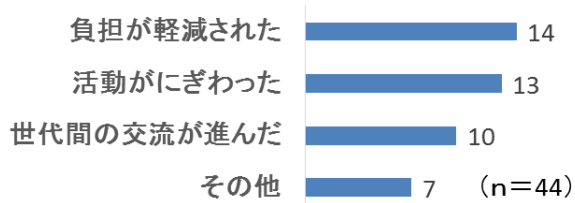


● 若者・NPOの参画による効果

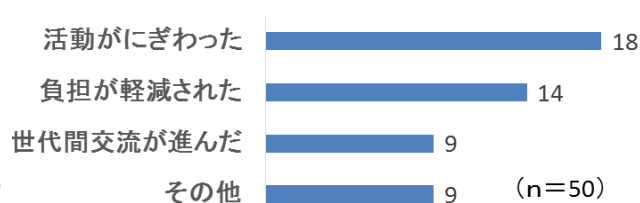
事業に若者やNPO等が参画したことによる効果については、若者・NPO等のいずれも約半数の回答者が「負担が軽減された」「活動がにぎわった」と感じていることが分かった。

また、その他の意見として、若者では「自分達と全く違う感性がとても新鮮であり、地域活性化の参考になる」という意見が、NPO等では「人と人を結びつける人脈に感心する」という意見がある一方で、いずれも共通して「特筆するような効果は出ていない」という意見も見られた。

問2. 若者の参画による効果

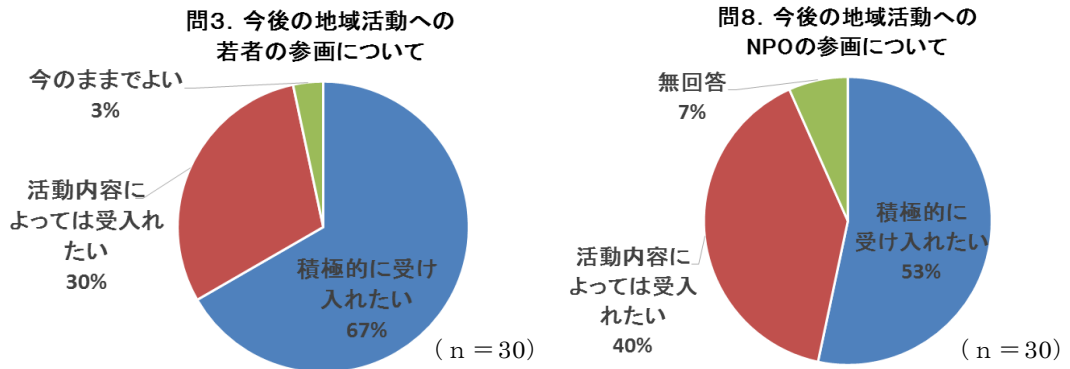


問7. NPO等の参画による効果



- 今後の若者やNPO等の参加・参画

今後の若者やNPO等の地域活動への参加・参画に対しては、「積極的に」あるいは「活動内容によっては」受け入れたいとの回答が約95%を占めており、受入れに対して前向きに捉えていることがわかった。

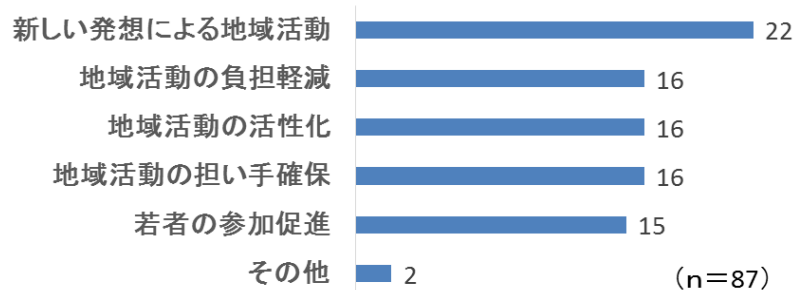


- 若者やNPO等の参加・参画による期待

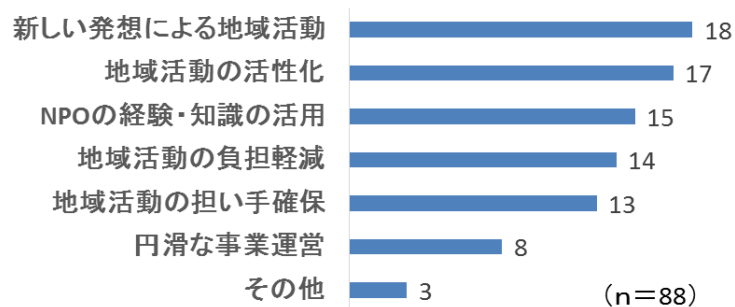
若者やNPO等に期待することに関してはいずれも「新しい発想による地域活動」が、次いで「地域の活性化」への期待が高く示された。

また、その他の意見として、若者では「地域の若い方を参画させるアイデア」を求めること、NPO等では『負担意識』から『楽しんで参加する』への心の変化を期待するという意見がみられた。

問4. 地域活動への若者の参画による期待



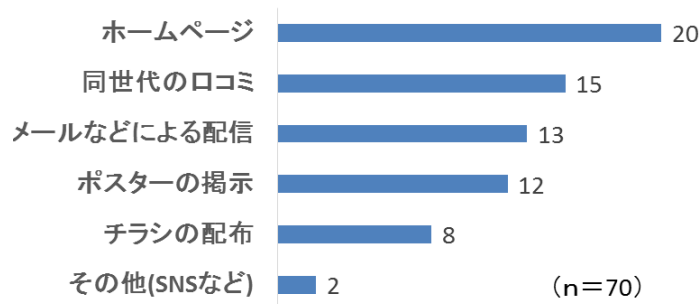
問9. 地域活動へのNPO等の参画による期待



- 若者への情報提供

地域活動に関する若者への情報提供の方法として、ポスターやチラシなどの紙媒体よりも、ホームページやメール配信、また同世代による口コミが効果的と考えられている。

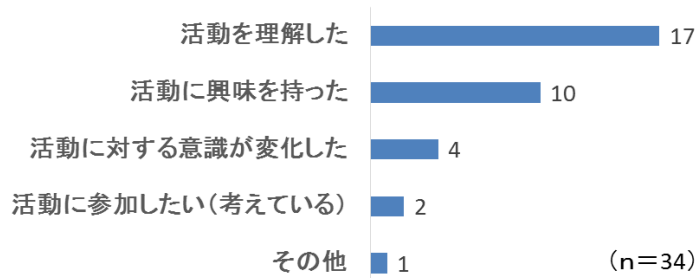
問5. 若者への情報提供の方法について



- NPO等の活動

NPO等市民団体の活動への理解に関しては、一定の理解・興味喚起につながっていることがわかった。

問10. NPO等の市民団体の活動について



自由記述に関する回答については下記の通りである。

- 問11. NPO等の市民団体の活動についてお気づきのこと

- ・ 多様な活動、意見の違いを取り込む
- ・ 地域や住民のために働きたいというNPOの存在に、将来の日本に希望を持った。
- ・ 活動内容をもっと具体的に知らせてほしい。
- ・ 地域の活性化に大いに役立っている。
- ・ 高年齢化、負担増の解消方法の発見。

- 地域の活動に参加しての感想・提案

<新千里北町地域自治協議会>

- ・ 自治協議会として住民側からの視点で、行政側からの縦型の組織ではなく、ニーズに応じての自由な組織活動へと組織のあり方・活動のあり方を見直すべき。
- ・ 北丘校区は色々な住民が入り交ざっており、高齢者が多い。とくに府営の場合28年～入居者募集がないため、自治会そのものが成り立たなくなっている。
- ・ 後継者、人材不足が目立って来たので対応策を講じる必要が急務。
- ・ 協議会として、様々な身体状況、年令の方参加型の事業を願う。
- ・ 特定の人が独自の想定で進んでいる風評もある。
- ・ 最近、活発になっているように感じる。

<小曾根小学校区地域自治協議会>

- ・過去にあった青年団がなくなり、中間層である若者が地域の活動に参画できない状況。これが、地域の活性化に向けて拡がらない要因ではと考えます。このモデル事業で、地域活動の中心となる若者の組織が広がることが望ましいと感じています。
- ・我々の校区に外部者が入って来た時、受け入れに違和感がありましたが、目と顔を合わせるにより親近感を覚える様になりました。これからも宜しくお願い致します。
- ・町会が「近所付き合い、助け合い」の手助けができる組織になれるとよいと思う。町会役員主体の行事ではなく、皆が参加できるものが何か考え実行していこうと思う。
- ・少しでも地域の力になれば良いと思う。
- ・防災訓練の内容が現実性に欠ける。

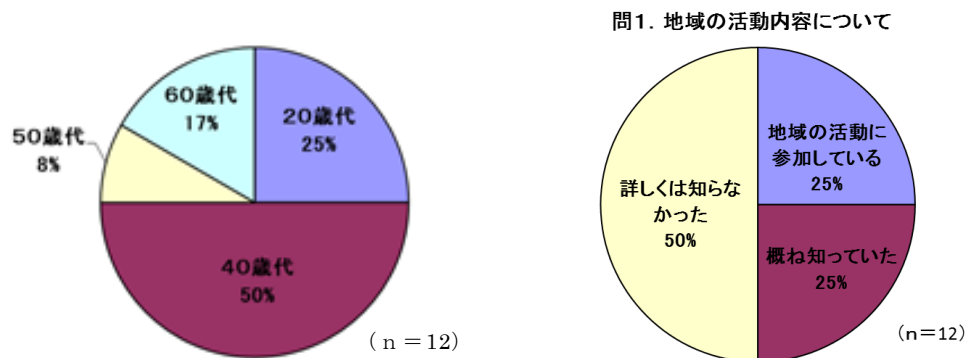
②NPO等（市民活動団体・事業者・企業・学生団体）

● 年齢構成

年齢構成は、40歳代が50%、次いで20歳代が25%と比較的若い世代でしめられていた。

● 地域活動への参加

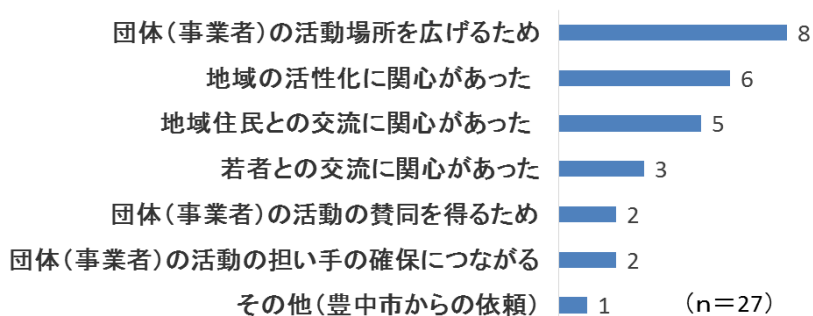
「地域活動の内容について知っている」団体と、「詳しくは知らなかった」団体とが、同じ比率で構成されていた。



● 地域活動への参加理由

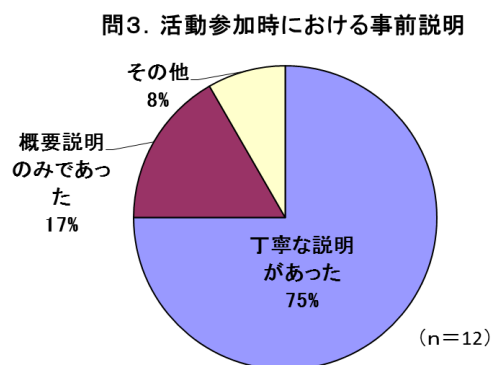
回答者の多くが「団体の活動場所を広げるため」に地域活動に参加していると回答があった。また、地域の活性化や地域住民との交流に関心を持っていることも理由として挙げられていた。

問2. 地域の活動に参加した理由



● 活動参加時における事前説明

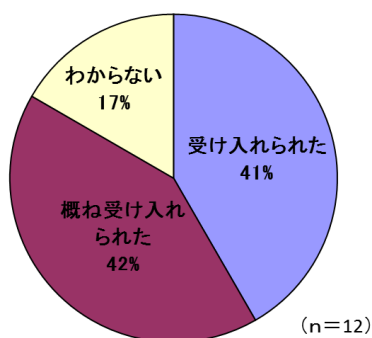
事業への参加・参画に際しては、「丁寧な説明があった」が75%と高い割合であった。



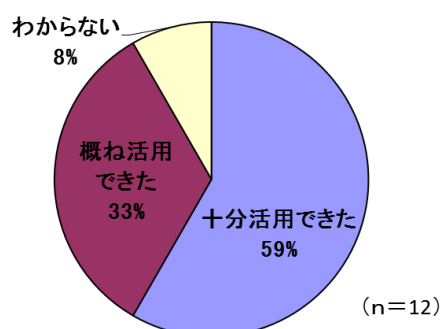
● 団体活動の受け入れや活用

事業に関わったNPO等の85%以上が地域に受け入れられたと感じていた。また、その際、ほとんどの団体がノウハウを活用できたと感じていることが示された。

問4. 団体の活動への地域住民の受け入れ



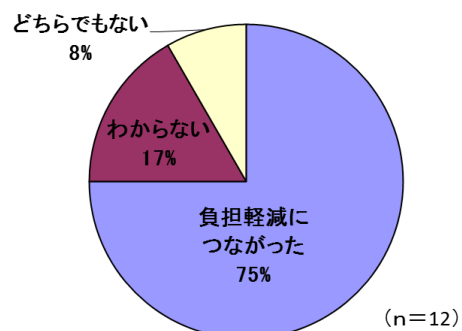
問5. 団体のもつ経験や専門性の活用



● 地域の負担軽減

事業への参画が地域の負担軽減につながったと考えるNPO等は75%と高い割合であった。

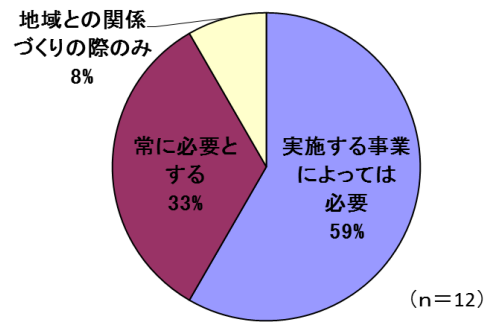
問6. 地域の活動の負担軽減につながったか



問7. コーディネーターの必要性

● コーディネーターの必要性

NPO等がコーディネーターの必要性を感じている割合は、「実施する事業によっては必要」と「常に必要とする」を合わせると、90%以上がコーディネーターを必要としていることが分かった。



また、コーディネーターの必要性についての理由として、次の意見があった。

<実施する事業によっては必要>

- ・当日の足湯隊からの参加者が私だけだったこともあり、ソーシャルギルドさんには、地域との関係づくりや授業に必要な備品の準備、当日の足湯の手伝いなど、企画から実施に至るまでたいへんお世話になりました。団体の規模が小さかったり、実施内容が手間のかかることだったりする場合、コーディネーターの協力は必要になるかと思いました。
- ・地縁組織と事業者がダイレクトにつながるができるのなら、必ずしも必要であるとは思わない。
- ・全てに対して必要とし、活用してしまった場合、地域色が薄れてしまう気がするから。
- ・地域と団体とが直接協働し合うことの方が交流がスムーズに行く場合もある。
- ・住民の自治力を育むためには、必要でない時もある。

<常に必要とする>

- ・なにごとにもワンクッションあるほうが円滑に進むから。他の地域での事例などの経験をもっている第三者の存在は大きいと思ったから。
- ・お互いが「持ってる」ものを「シェア」する役割？としてコーディネーターが必要かと思います。
- ・協働事業をするにあたって、日頃いろいろな事で話し合っていないとうまく気持ちを通じない。
- ・地域とのつながりがない為。

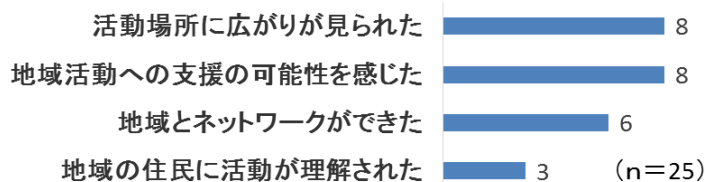
<地域との関係づくりの際には必要>

- ・いくらコーディネーターが優秀でも、最終的には地縁をもつ方々と直接の人間関係で決まるため。

● 団体活動の広がり

事業を通じた団体活動の広がりについては、すべての団体が肯定的に捉えており、上位の回答結果は問2の参加理由と合致していた。

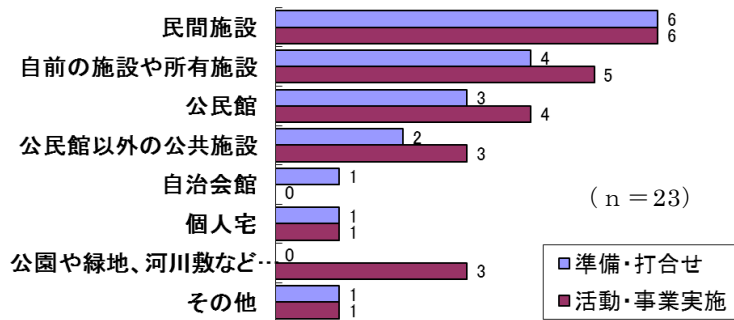
問8. 事業を通じ、団体の活動に 広がりが見られたか



● 団体活動での利用場所

各団体の普段の活動利用場所に関しては、民間施設・所有施設を利用する団体が多くあった。

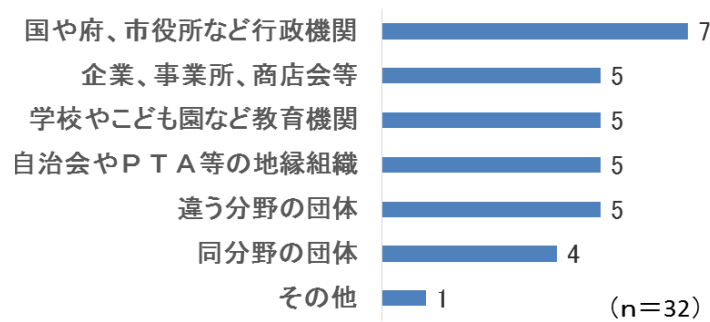
問10. 団体の活動で主に利用している場所



● 他団体との連携実績

過去の連携実績については、行政機関との連携が多く、次いで自治会や教育機関等の地縁組織が多くみられた。

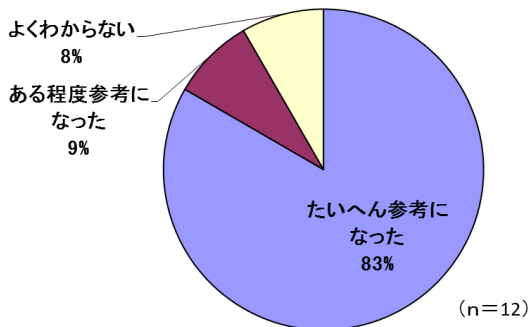
問11. 他団体との連携実績について



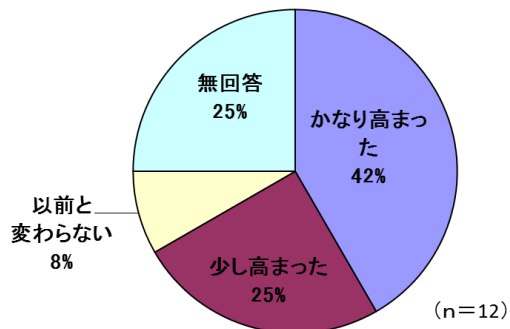
● 地域活動への関心

問12の結果より、ほぼすべての団体が、地域活動が今後の活動の参考になったと答えている。問13の結果から、地域に対する関心も一定高まっていることがみられた。

問12. 地域活動は今後の参考になったか



問13. 地域活動への関心について



また、問13の地域活動への関心についての理由として、次の意見が寄せられた。

<関心はかなり高まった>

- ・元々関心が低いわけではないのでこの事業でグッと高まったというとは少し違いかもかもしれませんが、世代間や各団体の交流ぶりが面白かったので、こういう取り組みが各地で広がればいいなど。
- ・元から興味があったのですが、豊中では市、保護者、子供、すべての協力でイベントが成されているのを見て憧れたため、関心がもてました。
- ・地域の困った事などが浮かび上がってくる。
- ・地域のみなさんが力を合わせておられた。
- ・豊中というまちを少し知れたから。

<関心は少し高まった>

- ・このような地域と社団法人と学校が連携して、毎回活動をするというのは初めて見たので興味深いなと思いました。毎回違うことをしておられる？ので、子どもたちは色々な活動や大人に出会えて、キャリア教育の一環にもなりうるのかなと思いました。
- ・地域に関係する職員さん(市役所の方)と直接お話した内容が興味深かったのでまた直接、地域の人と交流する経験は今までなかったから。新しい展開のきっかけになったから。
- ・地域にまとまりがあり、活動もアクティブであることがわかった。

<以前と変わらない>

- ・日常より地域活動に関心があり、より多くの市民が関わって欲しいと思って活動をしています。事前事後でその思いに変化はありません。

● 問9での「参加事業で感じた問題・課題」に関する自由意見

- ・子どもが足湯をしてどう感じたのかを紙に書いてもらうなど、保存できる形で残せたらよかったですと思いました。当日の子どもたちの反応から、楽しそう、恥ずかしそうというのは感じられましたが、もっと他にも感じていることがあったのなら知りたかったです。
- ・この活動への「参加の仕方」が多様性があるともっといいと思った。資金で支える、広報で支える、人をよぶ、などのライトな参加の仕方があればいいかなと思いました。
- ・今回事業支援の中では、我々の活動の本来の目標（地域の価値の再発見への貢献）に十分にはつなげることができなかった。
- ・今回の事業は短期間での取り組みだった 継続性のある事業のときにまた結束できるのかどうかは課題になるかもしれない。
- ・点の活動にとどまっており、定期的に同じ地域に入る覚悟があらかじめ必要だと実感させられた。
- ・子どもさんも参加され、いい事業だったと思います。問題はないと思います。
- ・地域での皆さんに信頼を得て理解される事はなかなか難しい。
- ・自立に向けたコーディネートの必要性。

● 問14での「地域活動に対する印象の変化」に関する自由意見

- ・私の中では子ども会というとボーリングをしたり、お菓子を食ったりと、遊びというイメージがあったので、災害ボランティアに子どもたちは本当に興味を示すのか気がかりでしたが、普段からの地域の方々の教育のためか子どもたちは真剣に話を聞いてくれて、とても嬉しかったです。
- ・地域の信頼を得るにあたって、住民が信頼している自治会に賛同を得られると活動が受け入れられやすいのではないかと。
- ・地域活動の核になるような新たなリーダーが出てきていること。

● 事業に参加しての感想・提案に関する自由意見

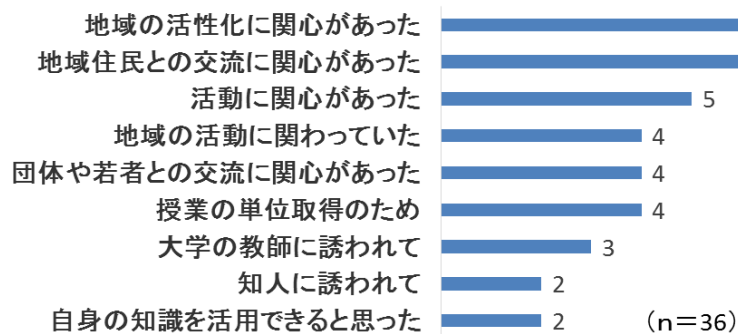
- ・地域のハザードマップで、学校周辺が大雨の浸水可能性地域であることを伝えたときに、子どもも大人も驚いていたのがとても印象的でした。自分の住んでいる地域でどんな災害が起こりうるのか知らない人もいれば、地震には備えていたけど水害には備えていなかったという人もいて、災害に対する意識には個人差があるのだということがわかりました。また足湯は大人向けの渋いものだと思っていましたが、子どもも興味深く取り組んでくれるんだと気付きました。
- ・協力する度合いがどこまでなのかという力加減みたいなものを考えたり、これまで知らなかったひとや地域を知る機会になった。
- ・若者というところに焦点を合わせて活動していたが、子供も協力して街を良くするという事をしれました。
- ・景観上の規制があることなどについて、市がもっと地元に入り込んで説明すべきであった。
- ・とても楽しくお仕事させていただきました。ありがとうございます。
- ・他の地域との世情の違いなど、比較参考になった。
- ・塗装を身近に感じて頂ければありがたいです。
- ・楽しかったです。

③学生等

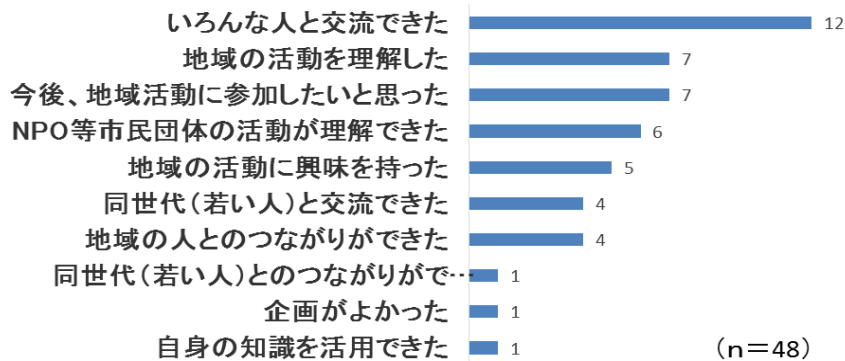
● 活動の参加について

問1から、多くの学生等が地域活動に関心を持ち、回答者のすべてが問3で「地域の活動に参加してよかった」と答え、またその理由として「いろいろな人と交流ができた」と答えている学生等が多くみられた。問1の地域活動に参加した理由と実際に地域活動に参加し、良かったと思う理由では、地域の人との交流に関して関係性があることが分かった。

問1. 地域の活動に参加した理由



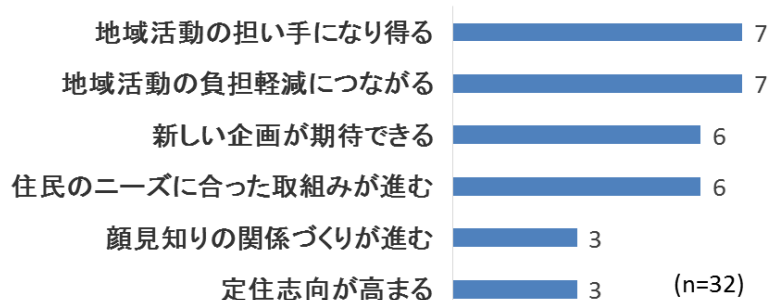
問3. 活動に参加して良かった理由



● 地域活動に若者の力が必要と思う理由

問5で地域活動に学生等の力を必要とするかを尋ねたところ、回答者のすべてが必要と感じていた。その理由については、「地域の担い手になり得る」、「活動の負担軽減につながる」、「新しい企画が期待できる」が上位を占めており、これは地域自治組織が若者に期待していることと合致している。

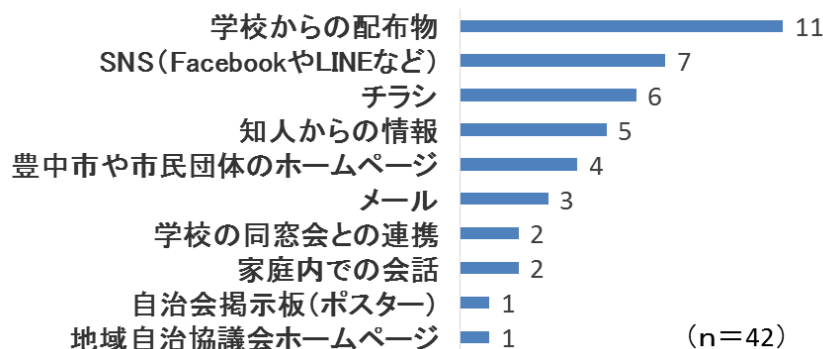
問5. 地域活動に若者の力が必要と思う理由



● 若者に地域の活動情報を伝える手段

若者に地域活動の情報を伝える手段に関しては、多くが「学校からの配布物」を挙げている。次いで約半数が「SNS」「チラシ」「知人からの情報」を挙げており、いずれも学生等にとって身近に情報が入手できることが有効であることが読み取れる。

問6. 若者に地域の活動情報を伝える手段について



自由記述に関する回答は下記の通りである。

- 問7での「若者が地域活動に参加・参画する際に必要な配慮」に関する意見
 - ・やはり、多くの人と関わることになるので、しっかり責任を持って、その上で何よりも楽しむことが必要だと考えます！
 - ・参加する前活動の内容と注意事項を確認、自分が活動中でできる事と勉強した事を事後考えるべきです。
 - ・分かりやすく事前に地域ごとの特色等を学ぶ。
 - ・異文化のコミュニケーション。

- 問8での「地域で活動している人が、参加・参画する若者に対し必要と思われる配慮」に関する意見
 - ・若者は地域活動に普通関心を持ってないので、活動が若者たちの未来に役に立つ事をきちんと伝えなければなりません。
 - ・いつどこで何があるのかを、2週間以上前から告知をしておく。
 - ・若者の意見を一度飲み込んであげて欲しいです。

- 感想・提案など
 - ・学生の意見も取りつつ、地域の大人から様々なことを学生に教えることは、お互いに教え合うことで交流も増えると思います。
 - ・学生はほとんどの人がアルバイトをしているので、早い段階で様々な活動の予定が分かっていると参加しやすいと思います。

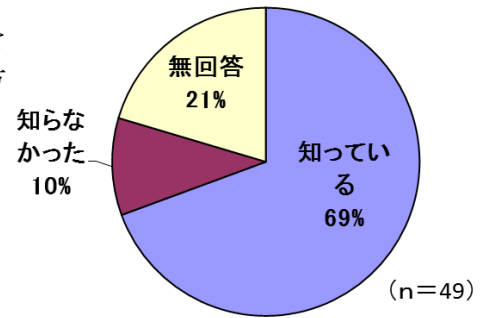
- 問10での「参加・参画（事業の企画を含む）したいと思う地域の活動」に関する意見
 - ・地域の人々同士の交流が減っている地域が多いと思うので、一大企画をしてみたい。例えば、地域の運動会等を小学校でする。

④参加者

● 地域自治組織の認知度

事業に参加した住民の約70%が地域自治組織を「知っている」と回答している一方で、10%の方が「知らなかった」と回答があった。

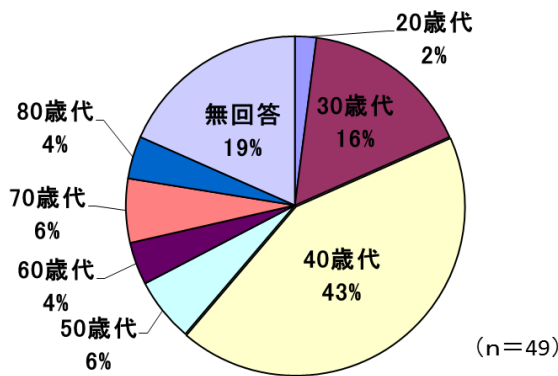
問9-1. 地域自治協議会について



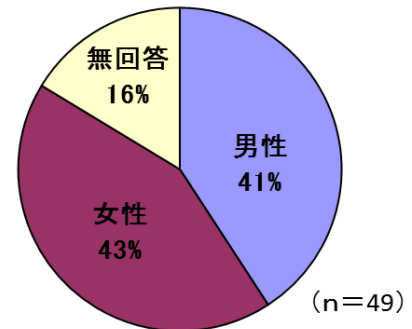
● 年齢構成と性別

事業に参加している住民の年齢は30歳代・40歳代で全体の約60%を占めていた。また性別については概ね同数であった。

問9-2. 回答者の年齢



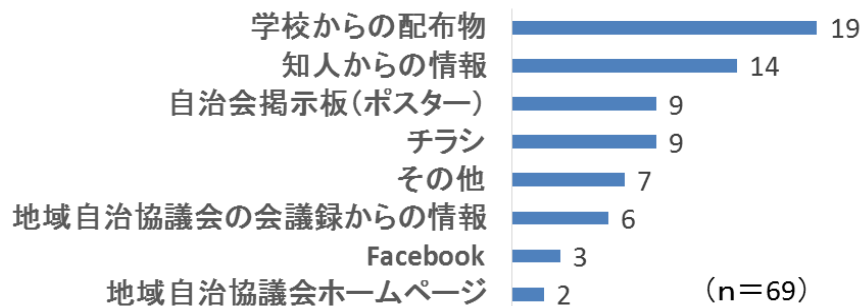
問9-3. 回答者の性別



● 事業の情報入手方法

事業に関する情報の入手方法としては「学校からの配布物」が多く、次いで「知人からの情報」「自治会掲示板(ポスター)」の順であった。この理由として、新千里北町での事業が子育て支援事業であったことも影響していると考えられる。

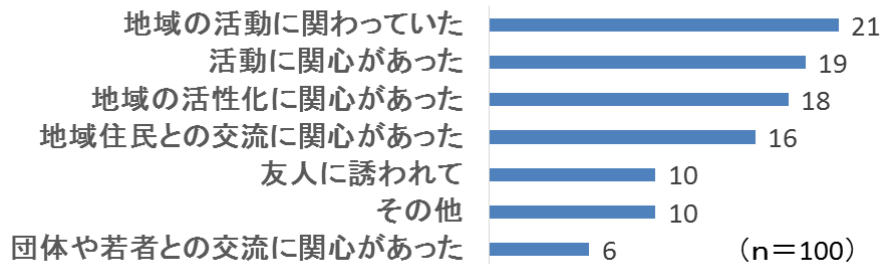
問1. 地域の活動について得た情報源



- 地域活動への参加理由

事業への参加理由については、「すでに地域の活動に関わっていた」ことや地域の活動や住民との交流に関心を持っていることが分かった。

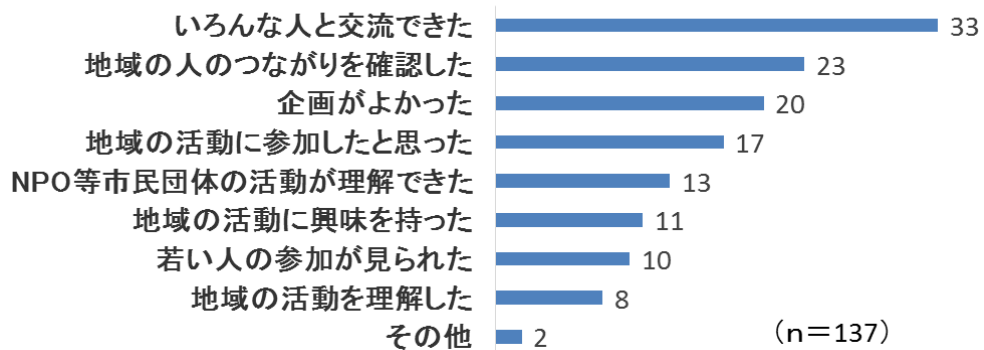
問2. 活動への参加理由



- 活動に参加してよかった理由

問3において、すべての方が活動に参加され「良かった」と回答されており、その理由としては、交流できたことだけでなく、「地域の人々のつながりを確認した」「地域の活動に参加したと思った」など、地域との関係性に関する選択肢が支持されていることが分かった。また、企画が良かったことも理由として挙げられていた。

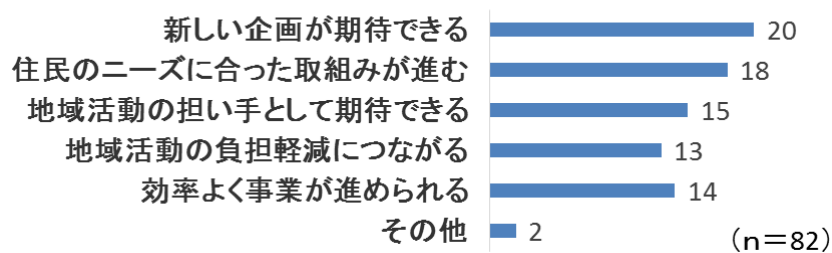
問4. 活動に参加してよかった理由



- NPO等市民団体を必要と思う理由

問5において、すべての方がNPO等市民団体の地域活動への参加を必要としており、その理由として、新しい企画や住民のニーズに合った取組み、また、活動の担い手としての期待が高くみられた。

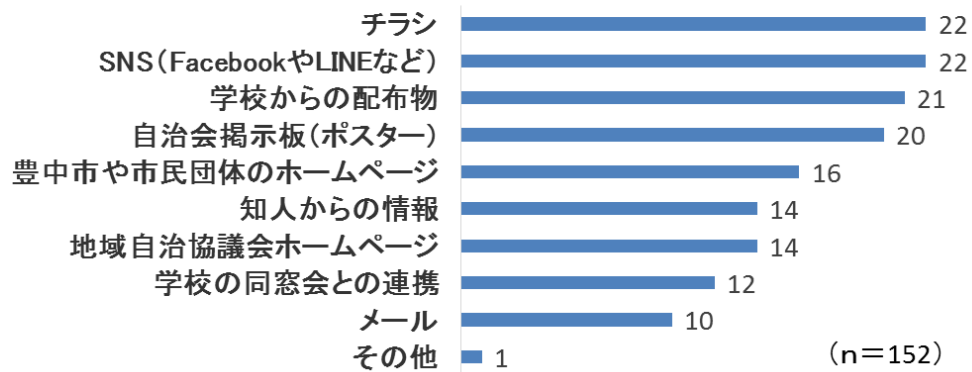
問6.NPO等市民団体を必要と思う理由



● 若い世代に地域の活動情報を伝える方法

地域の学生等の若い世代への情報提供方法としては、「チラシ」や「学校からの配布物」といった紙媒体に加え、「SNS」や「ホームページ」の活用といった意見が多く占められていた。

問7.若い世代に地域の活動情報を伝える方法



● 感想や提案など

- ・子どもも大人も楽しめる企画だったと思います、参加できてよかったです！！
- ・ペイントを北町のいろんな所（できる所）を住民の手でつくっていただけたら。
- ・ゼロからすばらしい結実となった。すばらしい地域の壁が出来た。
- ・今回にめげず、経験をつんで、よりよい関係を築きたい。
- ・初めて参加しましたが、たいへん楽しかったです。
- ・まわりの方の協力がありがたかったです。
- ・地域住民のつながりが必要だと思う。
- ・よい体験ができました！
- ・初の経験で良かった。

2. ヒアリング

(1) 調査概要

① 調査期間

平成 28 年（2016 年）3 月 12 日（土）～3 月 19 日（金）

② 調査対象

調査対象	団体名、役職等	
協議会役員等（9 名）	新千里北町地域 自治協議会（5 名）	会長、副会長（2 名）、 広報部長、地域子ども教室代表
	小曾根小学校区地域 自治協議会（4 名）	会長、広報委員、 公民分館長、自主防災会会長
NPO 等（6 団体）	関西ペイント 千里ニュータウン研究・情報センター A-yan!!関西をアートで盛り上げるNPO 顔面研究部 若魂 塗魂ペインターズ	
学生等（2 名）	豊中市内在住（2 名）	

③ 調査方法

アンケート調査を補完する目的として、インタビュー形式で実施。

④ 調査項目

調査対象	調査項目
協議会役員等	若者・NPO等参加の感想・改善点等 若者にとって魅力的な地域活動について 効果的な情報発信の手段 地域活性化に向けてNPO等に求めること
NPO等	地域活動に参加した感想と問題点、改善点 学生等が魅力を感じるアイデア 今後、地域で活動したいと思うこと
学生等	活動の動機付け 活動に参加して感じたこと 地域と若者をつなげる方法 地域の若者の集め方

(2) ヒアリング結果

① 協議会役員等

【若者・NPO等参加の感想・改善点等について】

- ・学生等は、大人と子どもの間に入った活動を担っていたこともあり、地域活動の負担軽減につながったとの感想を持たれていた。
- ・一方、NPO等については、従来ではできない事業がNPO等の持つ専門性や経験を活かし取り組むことができ、地域の活動がにぎわったという印象を持たれている。
- ・また、コーディネーターも地域と団体等を調整し、地域の負担軽減につながったことを感じておられた。

【若者にとって魅力的な地域活動について】

- ・地域では、地域の負担軽減から同じ事業を行う傾向がみられるという指摘があり、その打開策として若い人の新しい発想を盛り込んだ企画が求められるといった意見があった。
- ・具体的には、若者が参加できる参加型のシステムやイベント、居場所づくり等といった活動、また時には、若者とお酒を飲むことや食事することの大切さも意見としてあった。

【効果的な情報発信の手段】

- ・学生等の使用頻度が高い情報ツールとして、SNSやホームページなどがある。このようなツールを活用してはどうかといった意見が多くあった。一方で、既存の情報ツールとして活用されている掲示板での周知の際、アニメなどの要素を取り入れ学生等の関心をもってもらうなどの意見もあった。
- ・また、併せて口コミや顔の見える関係性を重要視する考えも見られた。

【地域活性化に向けてNPO等に求めること】

- ・地域活動の負担軽減と新しい発想による事業の試みが必要であるという意見があった。
- ・また、学生等を掘り起こす場の重要性に関する意見が多くあった。

② NPO等

【地域活動に参加した感想と問題点、改善点】

- ・地域コミュニティ等の基盤の強さと地域に活動の可能性を感じていることが分かった。
- ・地域と協働していく方向性を団体が持っていることが分かった。

【学生等が魅力を感じるアイデア】

- ・新しいコンテンツ（アニメや音楽、スポーツなど）を活用し、時には地域外の人材の活用も必要との意見が多くあった。また、イベントの告知や実施内容に遊び心を取り入れることが必要であるとの意見も寄せられた。

【今後、地域で活動したいと思うこと】

- ・団体の専門性を活かし、地域の活性化に向けて若者を多く呼ぶために役立てたいとの意見が多く寄せられた。
- ・また、地域との関係性を持ち、定期的に地域活動に関わることに関心を持っていることが分かった。

③学生等

【活動の動機付け】

- ・地域活動に関心を持っていたことが大きな要因となっていた。

【活動に参加して感じたこと】

- ・新しい出会いがあり地域のことを学べたことや、事業の中で自身の力が発揮できたと達成感を持っていた。
- ・一方、会議の場においては自身の考えを伝えるタイミングが難しかったという意見もあった。

【地域と若者をつなげる方法】

- ・学生等が地域活動に求めるのは、気軽さや「やりがい」など様々であるとの意見があった。
- ・また、一部の大学や高校ではボランティア活動や地域連携に取り組んでいるところもあり、そうした機関と連携することでつながるのではないかという意見もあった。

【地域の若者の集め方】

- ・学生等は「楽しさ」から参加する傾向がみられるので、その段階からステップアップしていくイメージで組織の運営に関わるのではないかという意見があった。

IV. まとめ

本事業では、地域自治組織とNPO等の市民団体、学生等若者、行政が相互に理解を深め、地域コミュニティの活性化に向け地域の課題解決につながる事業を実施しました。その際、地域自治組織は学生等の若者や地域外の市民団体を快く受け入れたこともあり、実施する事業に新鮮さが加わり、にぎわいも見られました。

事業の効果としては、地域自治組織が既存の事業に加え地域住民のニーズに応じた事業内容を検討し、地域外部の活力を活用しながら事業運営の負担軽減を図るとともに、新しい視点を取り入れたことにあります。

具体的には、新千里北町地域自治協議会では、組織を構成する団体の事業実施に関して地域全体で負担軽減を図る取組みを進めるために、NPO等市民団体や学生等が事業の企画提案や運営支援を行いました。また、北丘小学校プール外壁のペイントはNPO等の経験を活かした、地域の課題解決につながる協働事業となりました。また、ペイント事業実施の際には、多様な意見を聞きながら進め、事業資金を募金で集めることなどの提案があり地域全体で募金活動が行われました。このことにより、事業に参加できない住民の参加意識も高まりました。小曾根小学校区地域自治協議会では、地域情報誌の創刊に向けた事業を実施しました。中学生や地域住民への取材や情報誌のレイアウトなどでNPO等市民団体や学生等の視点を取り入れることで多様な世代の人が楽しめる誌面ができました。

このように、地域自治組織とNPO等市民団体などが協働し取組みを進めていくためには、コーディネーターの役割は必要です。今後、地域コミュニティの活性化に向けて取組みを進めていくうえでも、地域自治組織の活動にNPO等市民団体の持つ専門性や経験を活かした技術支援やノウハウの継承、学生等若者が自発的に地域活動に参加することによる相互理解の促進が必要になります。そして、これらの取組みを通じて、新しい住民の活動への参加意識を醸成させていくことが求められます。

今後、本市におきましては、本事業で得られたデータや実践事例等を活用し、持続可能な地域活動の実現に向けた取組みを進め、さらなる地域コミュニティの活性化を図ります。

最後になりましたが、本事業にご理解をいただき、ご協力いただきました新千里北町地域自治協議会と小曾根小学校区地域自治協議会の皆さま、そしてNPO等市民団体の皆さま、事業に参加・参画いただいた学生をはじめ多くの皆さまにお礼を申し上げます。

V. 参画団体の紹介

—事業者・企業による社会貢献活動—

団体名	かんさい 関西ペイント株式会社		
代表者名	いしの ひろし 石野 博		
団体住所	大阪市中央区今橋二丁目 6 番 14 号		
TEL	06-6203-5531	FAX	06-6203-5018
メールアドレス	ホームページにて問合せホームあり		
活動分野	総合塗料メーカー		
活動目的・社是	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会社の信用を重んじ、顧客に満足される製品を供給することによって社会に貢献する。 2. 英知を育て、技術の革新をはかり、つねに経営の前身につとめる。 3. 和と協調につとめ、総力を結集する。 		
活動内容・事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種塗料の製造・販売 ・ 配色設計 ・ バイオ関連製品および電子材料関連製品の製造・販売 		
活動エリア	全国	従業員数	12,491 名
ホームページ	http://www.kansai.co.jp/		

団体名	株式会社サタケ		
代表者名	さたけ としこ 佐竹 利子		
団体住所	(広島本社) 広島県東広島市西条西本町 2 番 30 号 (大阪営業所) 大阪府豊中市稲津町 2 丁目 5 番 1 号		
TEL	06-6867-6015 (大阪営業所)	FAX	
メールアドレス	ホームページにて問合せホームあり		
活動分野	食品産業総合機械、プラント設備及び食品の製造販売		
活動目的・社是	「我らには世界最高の商品を開発・普及する使命がある。」 「我らには顧客への奉仕と文化の向上を期する責任がある。」 「我らには総親和の下、会社と従業員の繁栄を図る義務がある。」		
活動内容・事業内容	食品産業総合機械、プラント設備及び食品の製造販売		
活動エリア	全国	従業員数	2,700 名
ホームページ	http://www.satake-japan.co.jp/ja/		

団体名	<small>とうこん</small> 塗魂ペインターズ		
代表者名	<small>やすだ けいち</small> 安田 啓一		
TEL	0800-8000416	FAX	027 - 384 - 3938
メールアドレス	ホームページにてお問合せホームあり		
活動分野	ボランティア塗装		
活動目的	『人』に愛され、『地元』に愛され『社会』に愛される塗り替え施工店を目指し結成。『塗装店』であるが故、社会に対して、して差し上げられるのは『ボランティア』での塗装作業。プロフェッショナルとしての『特技』を社会に還元したくて結成された塗装のボランティア団体。		
活動内容・事業内容	全国でボランティアでの塗装作業を行う。 活動実績は http://www.to-kon-painters.com/works/ でも確認できる。		
活動エリア	全国	会員数	100社 (企業会員、塗装店のみ)
ホームページ	http://www.to-kon-painters.com/		

団体名	株式会社ユナイテッド・トゥモロー		
代表者名	<small>おぜき えいじ</small> 尾関 栄二		
TEL	090-9162-1845	FAX	
メールアドレス	eijiti@jttk.zaq.ne.jp		
活動分野	社会貢献情報紙(フリーペーパー)の編集・発行		
活動目的	クリエイティブな表現力で社会をより良いものに変える。		
活動内容・事業内容	さまざまな人が力を合わせ、よりよい社会づくりを目指す社会貢献情報紙。兵庫県・大阪市・京都市・奈良市・和歌山市の社会福祉協議会、ボランティア関連施設、なんばウォーク、HEPホールなどに設置。		
活動エリア	大阪府を中心として、関西圏	会員数	7法人、15個人 (「UTサポーターズ」としてホームページに掲載)
ホームページ	http://united-tomorrow.com/		

—学生団体—

団体名	あしゆたい KOBE足湯隊		
代表者名	はまだ 濱田 ゆき		
団体住所	兵庫県神戸市兵庫区中道通 2-1-10 (事務局:被災地 NGO 協働センター)		
TEL	078-574-0701	FAX	078-574-0702
メールアドレス	info@ngo-kyodo.org		
活動分野	災害救援活動		
活動目的	災害救援をはじめ、震災を契機に目立つようになった、地域や社会の中にある問題に取り組む。		
活動内容・事業内容	阪神・淡路大震災の救援活動をきっかけに生まれたボランティア団体。最近では被災地に支援活動に行くだけでなく、お祭りを運営したり高齢者とお話ししたり、子どもと遊んだり、餅をついたり、楽器を演奏したりと、本当に様々な活動を行なっている。		
活動エリア	全国	スタッフ数	10名
ホームページ	http://www.qqqlove.info/		

団体名	わかだましい 若魂		
代表者名	なす くうじ 那須 空次		
TEL	080-3798-1441	FAX	
メールアドレス	wakadamashi@yahoo.co.jp		
活動分野	若者の覚醒と成長		
活動目的	やりたいをカタチにする場を共に創る。若者が、若い勢い&パワーで、自己実現をしていく。		
活動内容	若者を題材にしたドキュメンタリー、ドラマの制作など		
活動エリア	大阪市	スタッフ数	6名
ホームページ	https://twitter.com/wakadamashi		

—NPO、市民活動団体—

団体名	A-yan!! ^{かんさい} 関西を ^も アートで ^あ 盛り上げるNPO	
代表者名	田中やんぶ	
団体住所	大阪市東成区神路 3-15-16 GRAF 内	
TEL	090-8571-9539	FAX
メールアドレス	info@a-yan4649.com	
活動分野	アートやイベント企画を通じたまちづくり	
活動目的	「アートはオモロイコト」です。アート＝エンターテインメントです。A-yan!!は「アート」をたくさんの人に「見て」「感じて」もらうことが大事だと考えています。	
活動内容	アートに携わる人々の創作活動を支援する非営利団体です。2005年2月、A-yan!!の前身「関西をアートで盛り上げる会」が活動開始。同年10月には御堂筋パレードに出場し、毎日放送で特番として放送されました。現在に至るまで、様々なアーティストの活躍の場を作り、卒業を見送ったアーティストもたくさんいます。人材の入れ替わりや時代の流れなど、様々に変化してきた部分も多くありますが、基本的な理念は設立当初から全く変わる所がありません。	
活動エリア	関西地域	スタッフ数 10名
ホームページ	http://a-yan4649.com/index.html	

団体名	^{が ん め ん け ん き ゅ う ぶ} 顔面研究部	
代表者名	^{き で ら} 木寺 ^{え り こ} 江莉子	
メールアドレス	ganmenkenkyubu@yahoo.co.jp	
活動分野	似顔絵	
活動目的	似顔絵で皆に笑顔を与える	
活動内容	近畿、大阪で似顔絵を描いている似顔絵集団	
活動エリア	関西地域	スタッフ数 10名
ホームページ	https://www.facebook.com/ganmennkenkyuubu	

団体名	子育て応援まーる（労協センター事業団 豊中地域福祉事業所）		
代表者名	つじしゅんこ 辻順子		
団体住所	豊中市中桜塚 1-14-6		
TEL	06-6855-0605	FAX	
メールアドレス	t-ma-ru@roukyou.gr.jp		
活動分野	訪問託児・子供の送迎・産前産後の家事支援など		
活動目的	「まーる」が所属するワーカーズコープは、働くメンバー自らが出資して、地域の課題を解決するための事業を立ち上げ、出資額に関わらず協議制で意思決定を行う形態で運営しています。		
事業内容	小学生までの子育てをしている家庭を対象に、いつでも必要なときに訪問し、幼稚園や保育所、子どもの習い事の送迎、産前産後の家事支援、兄弟姉妹の学校行事、通院や美容院、買い物といった時の子どもの保育などをサポートしています。		
活動エリア	豊中市	スタッフ数	10名
ホームページ	http://ameblo.jp/t-ma-ru/		

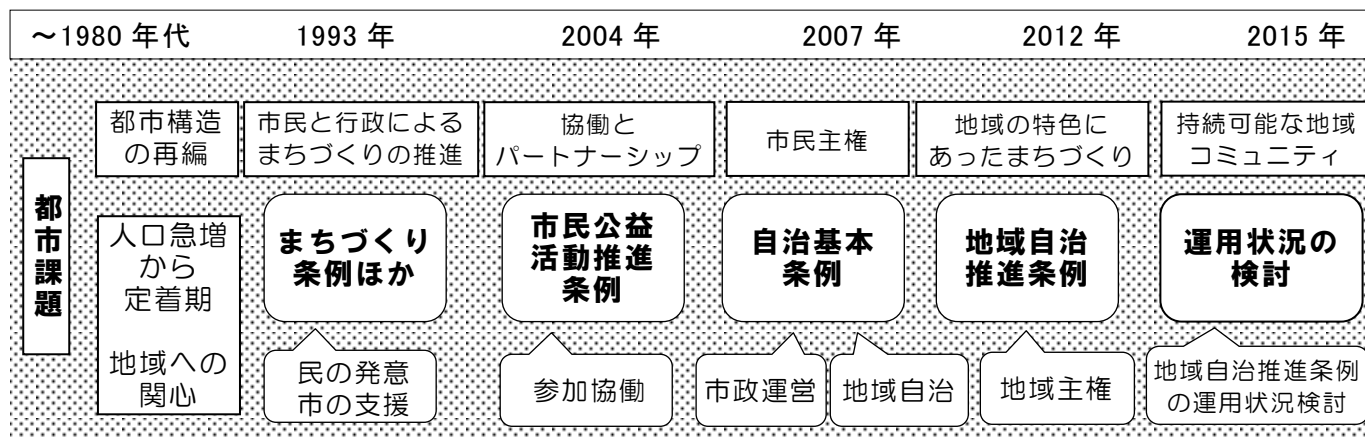
団体名	せんり けんきゅう じょうほう 千里ニュータウン研究・情報センター		
代表者名	おおたひろかず すずきたけし 太田博一、鈴木毅（共同代表）		
団体住所	大阪府豊中市新千里東町 3-6-111 「ひがしまち街角広場」2階		
TEL	06-6318-5360	FAX	
メールアドレス	ホームページにて問い合わせフォームあり		
活動分野	まちづくり		
活動目的	千里の風景や記録、記憶の収集、調査研究成果の公開、街の魅力や情報を表現・共有する		
活動内容	「まちびらき」から半世紀が経過した千里において、研究者と住民とが協働して、継続的に課題に取り組んでいく必要があると考え、ニュータウンの歴史と価値を発見するための、調査・研究、アーカイブ、デザイン、情報発信などに取り組んでいます。		
活動エリア	千里ニュータウン周辺	スタッフ数	10名
ホームページ	http://senrinentown.xsrv.jp/		

団体名	NPO法人とよなか ESD ネットワーク	
代表者名	かみむら ゆり 上村有里	
団体住所	大阪府豊中市庄内幸町2丁目29番19号	
メールアドレス	ten.toyonaka@gmail.com	
活動分野	環境、開発、人権、平和、ジェンダー、国際、福祉など	
活動目的	市民と行政、さまざまな社会的課題に関わる市民公益活動団体（環境、開発、人権、平和、ジェンダー、国際、福祉など）や学校、地域諸団体、企業、商店などをつなぎ、ESD（持続可能な開発のための教育）を推進しながら協働のプラットフォームをつくる中で、持続可能な地域社会をめざします。	
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ ESDに関する講座や研修および普及啓発活動 ・ ESDに関わる団体、市民、事業者、行政、地域諸団体などの交流連携を促進する事業 ・ ESDを促進するためのしくみづくりに関する地域・企業や行政との協働事業など 	
活動エリア	主に豊中市内	スタッフ数 13名
ホームページ	http://ten.or.jp	

団体名	NPO法人みんなの未来かいたく団	
代表者名	児島一平	
団体住所	豊中市庄内栄町5丁目11番5号	
TEL	090-8882-9984	FAX なし
メールアドレス	ippeik@nifty.com	
活動分野	耕作放棄地の再生、生きづらさを抱えた若者のサポート	
活動目的	里山や農地への悪影響が社会問題となっている「耕作放棄地」を開拓再生することで、私たちの生活の基盤となる「安心・安全な食」の維持発展を図り、また土地の再生を通じた「農的取組」を「人の再生」と絡めて推進することで、人々が生き甲斐を感じることでできる社会の創造に寄与する。	
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耕作放棄地の再生に関する事業 ・ 土地の再生を通じたニート・ひきこもりに関する自立支援事業 ・ 農村の振興に関する事業 ・ 農に関わる人材の育成に関する事業 など 	
活動エリア	関西地域	スタッフ数 20名
ホームページ	https://www.facebook.com/mintakdan/	

参考資料

1. 豊中市の自治・まちづくり関連条例の歩み



(1) 協働でめざすもの“豊中市自治基本条例”

- ①自治の主体は市民
(市民主権の理念)
- ②二つの自治
(団体自治と住民自治)
- ③参画と協働
(市民・事業者・行政)

(2) 協働を進めるために“自治の基本原則”

- 情報共有の原則
市民・事業者・市が市政に関する情報を共有する。
- 参画の原則
市民・事業者の参画で市政を行う。
- 協働の原則
市民・事業者・市は互いに理解、尊重し、対等な立場で連携して課題に取り組む。

(3) 参加と協働の取組み

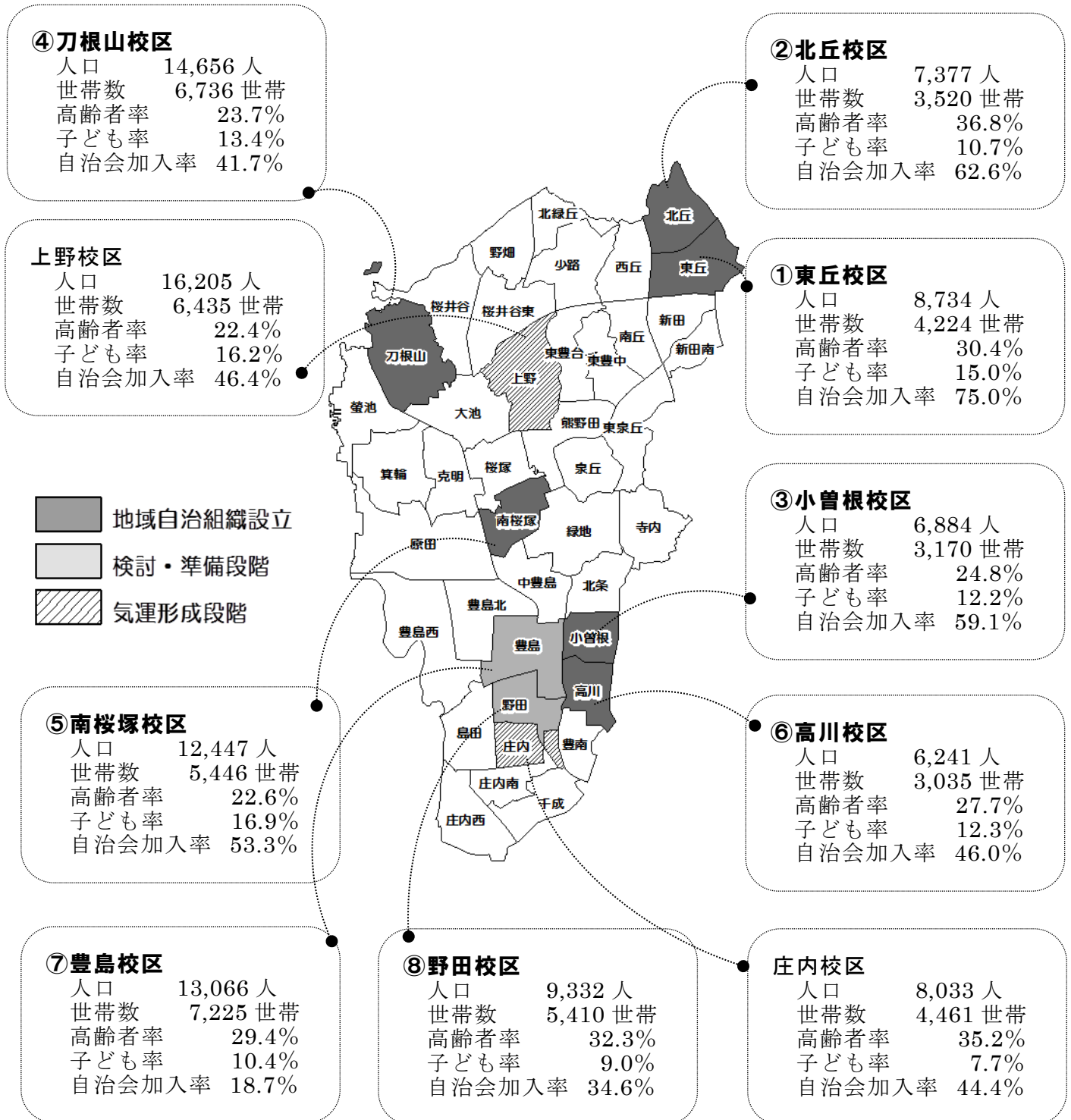
- 地域の課題は市民・事業者が解決に向けて取り組む。
- 市は地域の取組みに必要な施策を実施する。

(4) 協働推進のしくみ

- 協働事業市民提案制度
NPO等市民団体が、地域の課題を解決するために、市と一緒に取り組みたい事業を市に提案する制度
- 提案公募型委託制度
行政課題を克服するために、市が課題を提示して市民団体などから広く企画提案を募る制度

2. 地域自治の取組み状況（平成 28 年（2016 年）3 月現在）

取組み段階		主な地域の取組み	取組み校区名
3	初期活動段階 (地域自治組織)	<ul style="list-style-type: none"> 地域自治組織設立 事業計画に基づく活動 	①東丘、②北丘、③小曾根 ④刀根山、⑤南桜塚、⑥高川
2	検討・準備段階	<ul style="list-style-type: none"> 組織設立に向けた検討 地域づくりビジョンの策定 	⑦豊島、⑧野田
1	気運形成段階	<ul style="list-style-type: none"> 地域自治を学ぶ(校区説明会) 地域課題を共有(意見交換会) 	上野、庄内



問7. 地域の活動にNPO等の市民団体が参加されたことで、どのような効果が見られたと思われますか。該当する番号すべてに○を付けてください。

- 1. 活動がにぎわった
- 2. 活動に関わる準備などで負担が軽減された
- 3. 世代間の交流が進んだ
- 4. 活動の参考になった
- 5. その他 ()

問8. 今後、NPO等の市民団体が参加・参画することについて該当する番号に一つ○を付けてください。

- 1. 積極的に受け入れたい
- 2. 活動の内容によっては受け入れたい
- 3. 今のままでよい(受け入れない)
- 4. その他 ()

問9. 地域の活動にNPO等の市民団体の参加・参画により期待されることについて、該当する番号すべてに○を付けてください。

- 1. 地域の活動の担い手確保
- 2. 地域のにぎわい(地域活動の活性化)
- 3. 地域の活動の負担軽減
- 4. 新しい発想による地域の活動
- 5. 円滑な事業運営
- 6. NPOの経験・知識の活用
- 7. その他 ()

問10. NPO等の市民団体の活動について、該当する番号すべてに○を付けてください。

- 1. 活動に参加したい(考えている)
- 2. 活動に興味を持った
- 3. 活動を理解した
- 4. 活動に対する意識が変化した
- 5. その他 ()

問11. NPO等の市民団体の活動について、お気づきのことがあればご記入ください。

自由記述意見

地域の活動に参加されて、ご感想やご提案などがあればご記入ください。

最後に差支えなければご記入ください。

年齢	歳代	校区	<input type="checkbox"/> 北丘小学校区	<input type="checkbox"/> 小曾根小学校区
----	----	----	---------------------------------	----------------------------------

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

アンケート調査票

NPO等

地域との協働事業について

問1. 地域の活動内容について該当する番号に一つ○を付けてください。

- | | |
|-----------------|------------|
| 1. 地域の活動に参加している | 2. 概ね知っていた |
| 3. 詳しくは知らなかった | 4. その他 () |

問2. 地域の活動に参加した理由で該当する番号全てに○を付けてください。

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 地域の活性化に関心があった | 2. 地域住民との交流に関心があった |
| 3. 若者との交流に関心があった | 4. 団体（事業者）の活動の賛同を得るため |
| 5. 団体（事業者）の活動の担い手の確保につながる | 6. 団体（事業者）の活動場所を広げるため |
| 7. 団体（事業者）運営の財源確保 | 8. その他 () |

問3. 今回、地域の活動に参加・参画される際、事前にコーディネーター（本委託業務受託団体：一般社団法人ソーシャルギルド）から業務の趣旨、地域の活動内容等の説明がありましたか。該当する番号一つに○を付けてください。

- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| 1. 丁寧な説明があった | 2. 概要の説明のみであった |
| 3. 説明はなく、地域の活動への協力の依頼を受けた | 4. 説明はなく、団体間のネットワークにより声をかけられた程度 |
| 5. その他 () | |

問4. 今回、参加された事業を通じて、貴団体（事業者）の活動が地域の住民に受け入れられたと思われませんか。該当する番号一つに○を付けてください。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 受け入れられた | 2. 概ね受け入れられた |
| 3. 受け入れられなかった | 4. わからない |

問5. 地域の活動に参加し、貴団体（事業所）のもつ経験や専門性が活用できたと考えますか。該当する番号一つに○を付けてください。

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 十分活用できた | 2. 概ね活用できた |
| 3. 活用できなかった | 4. わからない |

問6. 事業に参加・参画したことで、地域の活動の負担軽減につながったと思われませんか。該当する番号一つに○を付けてください。

- | | |
|------------------|------------|
| 1. 負担軽減につながった | 2. どちらでもない |
| 3. 地域の負担は変わっていない | 4. わからない |

問 7. 地域（地縁組織）と団体（事業者）との協働事業を行う際、コーディネーターの必要性について、該当する番号一つに○を付けてください。また、その理由をご記入ください。

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 常に必要とする | 2. 地域との関係づくりの際のみ必要 |
| 3. 実施する事業によっては必要 | 4. 必要としない |
| 5. その他 () | |

理由 _____

問 8. 事業を通して、今後の団体（事業者）の活動に広がりが見られたと思われませんか。該当する番号全てに○を付けてください。

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 活動場所に広がりが見られた | 2. 地域の住民に活動が理解された |
| 3. 地域活動への支援の可能性を感じた | 4. 地域とネットワークができた |
| 5. 会員の獲得につながった | 6. 広がりは見られない |
| 7. その他 () | |

問 9. 今回、参加された事業で感じられた問題・課題がありましたらご記入ください。

団体（事業者）の活動について

問 10. 団体（事業者）の活動で主に利用している場所はどちらになりますか。「準備や打合せの場所」と「活動や事業を実施する場所」に分けて、該当する番号を3つまで○を付けてください。

準備や打合せの場所	1. 公民館	2. 公民館以外の公共施設	3. 民間施設
	4. 自治会館	5. 自前の施設や所有施設	6. 個人宅
	7. 公園や緑地、河川敷など野外		
	8. その他 ()		
活動や事業を実施する場所	1. 公民館	2. 公民館以外の公共施設	3. 民間施設
	4. 自治会館	5. 自前の施設や所有施設	6. 個人宅
	7. 公園や緑地、河川敷など野外		
	8. その他 ()		

問 11. 団体（事業者）の活動の一環として他の団体（事業者）と連携して活動したことがありますか。該当する番号の全てに○を付けてください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 同じ分野の団体（事業者） | 2. 違う分野の団体（事業者） |
| 3. 国や府、市役所など行政機関 | 4. 企業、事業所、商店会等 |
| 5. 学校やこども園など教育機関 | 6. 自治会やPTA等の地縁組織 |
| 7. その他 () | 8. 連携したことがない |

アンケート調査票

学生等

問1. 活動に参加された理由について、該当する番号全てに○を付けてください。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 地域の活動に関わっていた | 2. 地域の活性化に関心があった |
| 3. 地域住民との交流に関心があった | 4. 団体や若者との交流に関心があった |
| 5. 活動に関心があった | 6. 知人に誘われて |
| 7. 授業の単位取得のため | 8. 大学の教師に誘われて |
| 9. 自身の知識を活用できると思った | 10. その他 () |

問2. 活動に参加されていかがでしたか？該当する番号一つに○を付けてください。

- | | |
|----------|--------------|
| 1. 良かった | 2. あまり良くなかった |
| 3. わからない | 4. その他 () |

問3. 問2で回答された理由について、該当する番号全てに○を付けてください。

●「良かった」と回答された方

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. いろんな人と交流できた | 2. 同世代(若い人)と交流できた |
| 3. NPO等市民団体の活動が理解できた | 4. 地域の活動を理解した |
| 5. 今後、地域活動に参加したいと思った | 6. 地域の活動に興味を持った |
| 7. 地域の人とのつながりができた | 8. 同世代(若い人)とのつながりができた |
| 9. 企画がよかった | 10. 自身の知識を活用できた |
| 11. その他 () | |

●「あまり良くなかった」と回答された方

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 参加者と馴染めなかった | 2. 参加者の年齢層が固定化されていた |
| 3. NPO等市民団体の活動に思えた | 4. 地域の活動のあり方に疑問をもった |
| 5. 知っている人が参加していなかった | 6. 企画がよくなかった |
| 7. 自身の知識が活用できなかった | 8. 事業の企画に携われなかった |
| 9. 事前の説明と内容が異なっていた | 10. 活動の労働力にすぎなかった |
| 11. その他 () | |

問4. 地域の活動に学生を含む若い方の力が必要と思われますか。該当する番号一つに○を付けてください。

- | | |
|----------|---------------|
| 1. 必要と思う | 2. あまり必要と思わない |
| 3. わからない | 4. その他 () |

問5. 問4で「必要と思う」に回答された方に伺います。その理由について該当する番号全てに○を付けてください。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 新しい企画が期待できる | 2. 住民のニーズに合った取組みが進む |
| 3. 地域活動の担い手になりえる | 4. 地域活動の負担軽減につながる |
| 5. 顔見知りの関係づくりが進む | 6. 定住志向が高まる |
| 7. その他 () | |

問6. 学生等の若い方に地域の活動情報を伝える方法として考えられることについて、該当する番号全てに○を付けてください。

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1. チラシ | 2. 自治会掲示板（ポスター） |
| 3. 学校からの配布物 | 4. 知人からの情報 |
| 5. 地域自治協議会ホームページ | 6. 豊中市や市民団体のホームページ |
| 7. メール | 8. SNS（Facebook や LINE など） |
| 9. 学校の同窓会との連携 | 10. 家庭内での会話 |
| 11. その他（ | ） |

問7. 学生等の若い方が地域の活動に参加・参画する際に配慮が必要と思われることをご記入ください。（自由記述）

（記述例：地域のことを事前に学ぶなど）

問8. 地域の活動をされている方が、地域の活動に参加・参画する学生等の若い方に対して配慮が必要と思われることをご記入ください。（自由記述）

（記述例：きちんと情報を届けていただきたいなど）

問9. その他に感想や提案などがあれば自由にご記入ください。（自由記述）

問10. 最後に差支えなければご記入ください。

参加・参画（事業の企画を含む）したいと思う地域の活動			
年齢	歳代	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

アンケート調査票

参加者

問1. 今回参加された地域の活動について、どのような方法で情報を得られましたか。
該当する番号全てに○を付けてください。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. チラシ | 2. 自治会掲示板（ポスター） |
| 3. 学校からの配布物 | 4. 知人からの情報 |
| 5. 地域自治協議会ホームページ | 6. 地域自治協議会の会議録からの情報 |
| 7. 豊中市や市民団体のホームページ | 8. Facebook |
| 9. その他（ | ） |

問2. 活動に参加された理由について、該当する番号全てに○を付けてください。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 地域の活動に関わっていた | 2. 地域の活性化に関心があった |
| 3. 地域住民との交流に関心があった | 4. 団体や若者との交流に関心があった |
| 5. 活動に関心があった | 6. 知人に誘われて |
| 7. その他（ | ） |

問3. 活動に参加されていかがでしたか？該当する番号一つに○を付けてください。

- | | |
|----------|--------------|
| 1. 良かった | 2. あまり良くなかった |
| 2. わからない | 4. その他（ |
| | ） |

問4. 問3で回答された理由について、該当する番号全てに○を付けてください。

●「良かった」と回答された方

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. いろんな人と交流できた | 2. 若い人の参加が見られた |
| 3. NPO等市民団体の活動が理解できた | 4. 地域の活動を理解した |
| 5. 地域の活動に参加したと思った | 6. 地域の活動に興味を持った |
| 7. 地域の人とのつながりを確認した | 8. 企画がよかった |
| 9. その他（ | ） |

●「あまり良くなかった」と回答された方

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 参加者と馴染めなかった | 2. 参加者の年齢層が固定化されていた |
| 3. NPO等市民団体の活動に思えた | 4. 地域の活動のあり方に疑問をもった |
| 5. 知っている人が参加していなかった | 6. 企画がよくなかった |
| 7. その他（ | ） |

問5. 参加された活動は、地域とNPO等市民団体が協力・連携し行われました。地域の活動にNPO等市民団体の力が必要と思われますか。該当する番号一つに○を付けてください。

- | | |
|----------|---------------|
| 1. 必要と思う | 2. あまり必要と思わない |
| 3. わからない | 4. その他（ |
| | ） |

問6. 問5で「必要と思う」に回答された方に伺います。その理由について該当する番号全てに○を付けてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 新しい企画が期待できる | 2. 住民のニーズに合った取組みが進む |
| 3. 地域活動の担い手として期待できる | 4. 地域活動の負担軽減につながる |
| 5. 効率よく事業が進められる | 6. その他 () |

問7. 地域では活動を安定的、継続的に進めていくうえで、学生等の若い方の参加が必要といったことをお聞きします。そこで、若い世代の方に地域の活動情報を伝える方法として考えられることについて、該当する番号全てに○を付けてください。

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| 1. チラシ | 2. 自治会掲示板 (ポスター) |
| 3. 学校からの配布物 | 4. 知人からの情報 |
| 5. 地域自治協議会ホームページ | 6. 豊中市や市民団体のホームページ |
| 7. メール | 8. SNS (Facebook や LINE など) |
| 9. 学校の同窓会との連携 | 10. その他 () |

問8. 感想や提案などがあれば自由にご記入ください。(自由記述)

--

問9. 最後に差支えなければご記入ください。該当する□にチェックをしてください。

新千里北町地域自治協議会について		<input type="checkbox"/> 知っている	<input type="checkbox"/> 知らなかった
年齢	歳代	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

地域自治組織と学生等若者・NPO等との協働によるモデル事業(報告書)
平成 28 年 (2016 年) 3 月

豊中市市民協働部コミュニティ政策課
〒561-8501 大阪府豊中市中桜塚 3-1-1 豊中市役所第一庁舎 5 階
電話 06-6858-2727 ファクス 06-6846-6003
メール community@city.toyonaka.osaka.jp
市ホームページ <https://www.city.toyonaka.osaka.jp/index.html>